

～超音波骨密度計LD-100で骨密度測定を受けられた生徒さん・ご家族の皆様へ～

若年層骨密度の診断基準および骨量低下における介入時期の検討 に関する調査へのご協力をお願い

今回、京都府立医科大学は、「若年層骨密度の診断基準および骨量低下における介入時期の検討」に関する研究を実施いたします。そのため、在校の中学校、高等学校で超音波骨密度計LD-100にて骨密度測定を受けられた生徒さんの骨密度測定結果、質問票を調査させていただきたいと考えています。

研究の目的

中・高校生は骨形成の盛んな時期であり、特に女性は18歳前後で骨形成が完了してしまうとの報告もあることから、この時期の骨の状況を把握し必要な介入をすることは将来の骨粗鬆症を予防するうえで非常に重要です。しかしながら、最も測定する必要がある世代を十分測定できていません。

今回の取組みは体重の影響を受けていない非荷重骨である手首のとう骨の骨密度データから、中・高校生の骨密度の標準値を決めることによって、骨密度減少を早期に発見し、対策を可能にすることを目的としています。

研究の方法

・対象となる生徒さんについて

中学校・高等学校にて、超音波骨密度計LD-100で骨密度測定を受けられた学生さんが対象となります。

・方法について

協力いただいた学生さんを性、年齢別に分け、骨密度測定値と質問票の結果をもとに解析します。

・資料の管理について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

ご自身、あるいはご家族の情報を本研究に登録したくない場合は、骨密度測定日から1

か月以内に下記連絡先までご連絡ください。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

本研究は、京都府立医科大学医学倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

連絡先

京都府立医科大学大学院地域保健医療疫学

職・氏名 助教・尾崎 悦子 電話：075-251-5770